

事業所における自己評価総括表

事業所名	LITALICOジュニア博多千代教室 放課後等デイサービス
事業者向け自己評価表作成日	2026年2月25日（水）
自己評価総括の担当者	大東紀良里

	実施期間	有効回答数(回答者数)	有効回答数(対象者数)
保護者評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	62	69
従業員評価	2025年12月19日(金) - 2026年1月29日(木)	10	14

各評価を受けて事業所内で分析した強みと弱み

事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること
<p>構造化された安心の支援環境 「支援の構造化」や「空間の切り分け（パーティション等）」を徹底することで、お子様が活動の見通しを持ちやすく、集中して取り組める環境を整備。</p> <p>個別のニーズに応える柔軟なプログラム お子様のその日の状態に合わせ、個別支援計画に基づいた具体的な支援を提供。特性を深く理解し、迅速に支援内容へ反映させる姿勢に高い信頼をいただいている。</p> <p>解像度の高い丁寧なコミュニケーション 日々の小さなお困りことや気付きを率直にお伝えすることで、ご家庭と事業所の間でお子様の姿を共有し、より深い理解（解像度の向上）に繋がっている。</p> <p>お子様の主体性と安心感の醸成 「何より子どもが楽しそうに通っている」というお声を多くいただいている。安心感の中での成功体験が、将来への見通しに繋がっている。</p>	<p>ビル共有部の安全・防犯体制への配慮 ビル自体の誤報への対応等、施設環境への不安が高い</p> <p>非常時対応の教育（防災レクチャー）の実施 有事対応の支援プログラムは立案等できていなかった</p> <p>情報提供の充実と利便性の向上 ・活動内容の事前共有が必要に応じて一部しかできていない ・社会資源の共有など情報提供は十分でない</p> <p>中長期的な支援体制の検討 支援時間の延長について多くの声が上がっているか教室体制が整わず導入できていない 中学生移行の通える放課後等デイサービスについては九州エリア全体で考えていく必要がある</p>

過去の取り組みや課題の振り返り

工夫していることや意識的に行っている取組等	事業所として考えている課題の要因等
<p>お子さま1人ひとりにあった支援提供 お子さまに合った支援計画を作成し、半年間に1度見直しを行いながら、個別最適な計画を作っている。</p> <p>活動の見通しと目的の提示 来所直後に1日の流れがわかる時間割を掲示して活動の見通しや目的がわかるようにしている。</p> <p>ホスピタリティの意識 保護者来所時の対応や挨拶、丁寧なフィードバックを心掛けている。</p> <p>支援の中での構造化 工作の際には手順書を活用するなど、お子さまが主体性を持って取り組めるような事前準備を行っている。</p>	<p>ビル共有部の安全・防犯体制への配慮 ビル自体の誤報への対応等、施設環境への不安に対し、ビル管理会社との連携を強化し、お子様がより安心して通える環境づくりを検討。</p> <p>非常時対応の教育（防災レクチャー）の実施 お子様自身が「有事の際、どう動くべきか」を学べる機会（防災プログラム等）を設け、不測の事態にも落ち着いて行動できる力を養う。</p> <p>情報提供の充実と利便性の向上 ・活動内容の事前共有：当日の活動に合わせた服装調整ができるよう、より詳細な情報発信の工夫を検討。 ・社会資源の共有：地域で活用できる社会資源や情報の提供を積極的に行い、ご家庭をトータルでサポートする。</p> <p>中長期的な支援体制の検討 支援時間の延長や、中学生以降の受け入れ枠の拡大については、運営体制やニーズを鑑みながら、今後の事業計画において重要な検討課題とする。</p>

さらなる充実と改善への取り組み

さらに充実を図るための取組等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
<p>情報収集の徹底 保護者さまやお子さまから支援的な要望をいただきながら、ニーズをすり合わせていき、より個別最適な支援提供を行えるようにしていく</p> <p>非常時対応の教育レクチャー/外出プログラムの実施 アンケートの中でご要望をいただいたように、放課後等デイサービスでは自立を促していくための有事対応の支援プログラムの提供を行い、支援の充実化を図っていく</p> <p>家族支援の提供 保護者の方への支援提供をより充実していくために定期的な家族支援の案内等を行い、安心して通所できる教室作りを行う</p>	<p>ビル共有部の安全・防犯体制 現状分析と共有： 誤報の原因をビル管理側に確認し、「設備不具合によるもの」など正誤情報を保護者へ速やかに共有して不安を解消する。 防犯・防災マニュアルの可視化： 誤報発生時のスタッフ配置や誘導手順を明文化し、事業所内に掲示して「ここなら安全」という信頼感を作る。</p> <p>情報提供の充実と利便性 活動カレンダーの改善： 予定表に「汚れ注意」「運動靴」などのアイコンを記載し、前日までに服装の目安を配信する。 情報コーナーの設置： 地域の福祉サービスや中高生向け事業所のパンフレットを集めた「社会資源コーナー」を事業所内に常設する。</p> <p>中長期的な支援体制 ニーズ調査の実施： 延長時間や中学生以降の通所について具体的なアンケートを行い、次年度の事業計画（増枠や時間変更）の検討材料とする。 進路相談会の開催： 自所での継続が難しい場合でも、中高生向けの他施設を紹介する見学会や相談会を企画し、将来への不安に寄り添う。</p>